

## 第 189 委員会「日本におけるケミカルバイオロジーの新展開」

### アカデミアと企業を結ぶ：TR 機構運営から学んだこと

#### 講演要旨

アカデミアと企業の連携を活性化するにはどうしたら良いか、というテーマを頂いている。講演では、創薬という限られた分野であるが、東京大学においてトランスレーショナル・リサーチ業務を遂行してきた経験から学んだことをお話しする。

最初に、製薬企業の創薬研究の現状を確認する。科学に著しい進歩が持たされたにも関わらず研究費当りの新薬の数は 60 年以上も減少の一途を辿っている。最早企業による研究のみでは、新薬の種を創出し続けることはできない。そこで、オープンイノベーションへの期待が高まっている。

しかし現実的には、バイオベンチャーが隆盛を誇る米国以外ではこのオープンイノベーションが花を咲かしている状況にはなっていない。これは、頂いたテーマの問題そのものとも言える。この問題を解決するためにはそれを構築している要素の全体像とその連関性を把握する必要がある。講演では、アカデミア、企業、そしてそれぞれ個人と組織の有している問題要素を取り上げるとともにその解決策について議論を行う。また、一例として東京大学 TR 機構の活動も紹介する。